



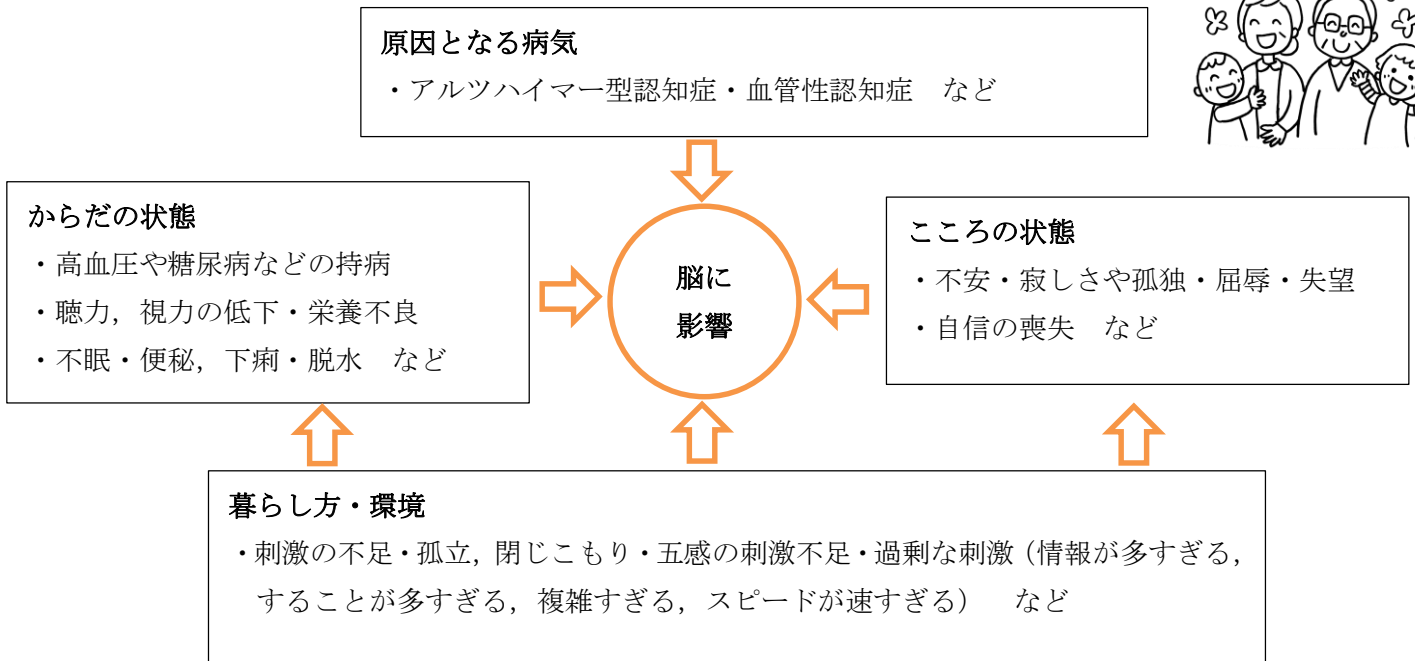
お元気ですか

平成30年10月

認知症の症状は変化しやすい！！

認知症の症状は、同じ人でもその時々によって強まったり目立たなくなったりします。そうした違いをもたらす要因が「からだの状態」「こころの状態」「暮らし方・環境」です。

【認知症の悪化に影響するさまざまな要因】



【上手に関われば周囲の人もラクになる】

認知症の人を理解し、上手に関わることを心がけていると本人の状態は落ち着き、行動・心理症状の軽減につながることもあります。

とはいえ、本人の気持ちや願いを大切にしようと心がけていても、現実にはそうはいかない場合も少なくないでしょう。

とりわけ発症前の認知症の人を知っている家族の場合、本人の変化に心を痛め、優しく関わろうとしてもなかなかできないのが現実です。また、認知症は進行していくケースが多い病気なので、その分、介護者の負担は大きくなっていきます。

介護がうまくいかなくても自分を責めるのではなく、できる範囲のことをしながら、周囲の人の支援や公的なサービスを求めることが、無理の少ない生活の継続につながります。

【介護する家族の心身の健康を守ることが大切】

認知症の介護をしている家族は、心身に疲れやストレスがたまったり、つい無理をしたりしがちです。

介護をするにあたり、家族自身の心身の健康を守ることが重要です。認知症の人の「その人らしさ」を大切にすると同じように、家族自身も心身をいたわり、自分らしく日々を暮らしていくことを大切にしましょう。

